

令和6年度埼玉県学力・学習状況調査報告書

〔令和6年4、5月実施〕

～子供たち一人一人のよさを伸ばし、よさを活かす～

令和7年1月
埼玉県教育委員会

はじめに

埼玉県学力・学習状況調査は、「学習したことがしっかりと身に付いているか」という従来の調査の視点に、「児童生徒一人一人の学力がどれだけ伸びているのか」という新たな視点を加えた自治体初の調査として、本年度10回目の節目を迎えました。

本年度より、埼玉県学力・学習状況調査を県内62の市町村でC B Tでの実施いたしました。C B T化に伴い、これまで得られなかった解答時間と見直し時間といった結果(解答ログ)が加わったことで、よりきめ細かな指導が可能になりました。

本報告書では、調査の詳細や、校内での帳票の活用方法の例、これまでの実施状況から見えてきたこと、調査結果の分析による指導のポイントなどを、分かりやすくまとめています。

今回の分析結果の一つに、苦手などの感情をコントロールして、学習へ向き合おうとする児童生徒ほど、学力も高い傾向が見られました。各学校においては、苦手なことを克服しようという気持ちを育む指導を行っていただく際に、解答ログから粘り強く取り組んでいる様子を把握することができるようになりました。この結果の他にも、各種分析を行っております。教職員の経験や勘だけでなく、エビデンスに基づいた児童生徒一人一人をより一層伸ばすための指導・支援について、校内研修をはじめ、教職員で話し合う機会などで積極的に御活用ください。

来年度も本調査をC B Tで実施する予定のため、各学校におかれましては、教育活動の中でタブレット端末等を積極的に御活用いただきますようお願いいたします。県といたしましても、児童生徒一人一人の学力と学習意欲を確実に伸ばす教育を引き続き推進してまいります。

今後とも、御理解・御協力をお願いいたします。

令和7年1月

埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課長

高 田 淳 子

【 県教育委員会の取組 】

これまでの成果

- 「主体的・対話的で深い学び」は学習方略、非認知能力の向上を通じて学力を向上させる相関があること
- 学級経営が、主体的・対話的で深い学びの実現や学習方略、非認知能力の向上に重要であること



- 「よいところを」認められた児童生徒は自己効力感が向上し、どの学年・教科でも学力が高い傾向があること



調査から見えてくる！
学力・学習の伸び
非認知能力・学習方略の状況
学習に対する意欲・態度の状況

埼玉県学力・学習状況調査
の実施・結果返却

総合的な支援

- ・全ての小・中学校等、児童生徒への支援
- ・各市町村・学校における取組の共有を促進
- ・調査データの分析結果の普及
- ・効果的な取組を県内で広く共有

主な取組

- ・学力向上推進協議会の実施
- ・県学調結果の分析や効果的な活用のための支援
- ・優れた指導技術の共有・普及(映像・アクションリサーチ)
- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点による質問調査

重点的な支援

- ・特に支援が必要な市町村・学校への対応
- ・特に学習のつまづきが見られる学年・教科等への対応
- ・各市町村・学校の実態に応じた課題に対する支援

主な取組

- ・県学調結果に基づく市町村や学校に対する支援
- ・「未来を生き抜く人材育成」学力保障スクラム事業
- ・学力向上研究校指定事業
- ・学力向上プロジェクト教員の配置

【 市町村教育委員会・学校の取組 】

- ・調査データに基づき、児童生徒の実態を多角的・多面的に分析・把握
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善PDCAサイクルの確実な実施
- ・校内研修等で学力を伸ばした取組の共有

児童生徒一人一人の
学力を確実に伸ばす



【 児童生徒・家庭の取組 】

- ・自分自身の成長(伸び)を実感し、自己効力感を高めながら次の学びへの挑戦(児童生徒)
- ・「よいところ」「努力が必要なところ」を把握し、一緒に具体的な目標の設定(保護者)

目 次

はじめに

令和6年度 埼玉県学力・学習状況調査グランドデザイン

第1章 調査の概要

1 調査の概要	2
(1) 調査の目的	2
(2) 調査の対象	2
(3) 調査の内容・方法	2
(4) 調査実施日等	3
2 CBT化と解答ログ	3

第2章 調査結果の概要

1 「学力の伸び」の状況（令和元年度～令和6年度）	5
(1) 学力のレベルの経年変化	5
(2) 各学年における各教科の領域ごとの解答ログの結果	5
2 調査から見られた傾向	7
(1) 「学習方略（努力調整方略）」と「学力」	7
(2) 「学びの系統性」と「学力」	8
(3) 「学びの系統性」と「学習の見通し」	9
(4) 「場面に応じた優しい言葉遣い」と「自分の考えの変容」	11
(5) 「学力」と「場に応じた態度」	13
【参考資料】これまでの分析から分かってきたこと（概要）	15
【参考資料】非認知能力や学習方略の質問事項	16

第3章 調査結果の活用

1 個人結果票、結果帳票の活用	19
(1) 個人結果票（教科に関する調査結果）の見方	19
(2) 個人結果票（質問調査の結果～規律ある態度の達成目標～）の見方	20
(3) 家庭での活用の仕方	20
(4) 学級担任の活用の仕方	21
(5) 学級担任・教科担当者の帳票結果の分析・活用（例）	22
(6) 学校担当者の帳票結果の分析・活用（例）	23
2 授業改善への活用	27
(1) 教科別授業改善の視点	27
(2) 学習指導のポイント	29

第4章 特徴的な取組の紹介

1 草加市立稲荷小学校の取組	58
2 ふじみ野市立元福小学校の取組	60
3 上里町立神保原小学校の取組	62
4 加須市立元和小学校の取組	64
5 桶川市立桶川西中学校の取組	66
6 所沢市立狭山ヶ丘中学校の取組	68
7 深谷市立藤沢中学校の取組	70
8 越谷市立大袋中学校の取組	72

第5章	その他		
1	学力の経年変化（伸び）を見る調査の設計	75
2	調査に関するQ&A	79
3	「主体的・対話的で深い学び」の視点による質問調査	83